

決算の状況

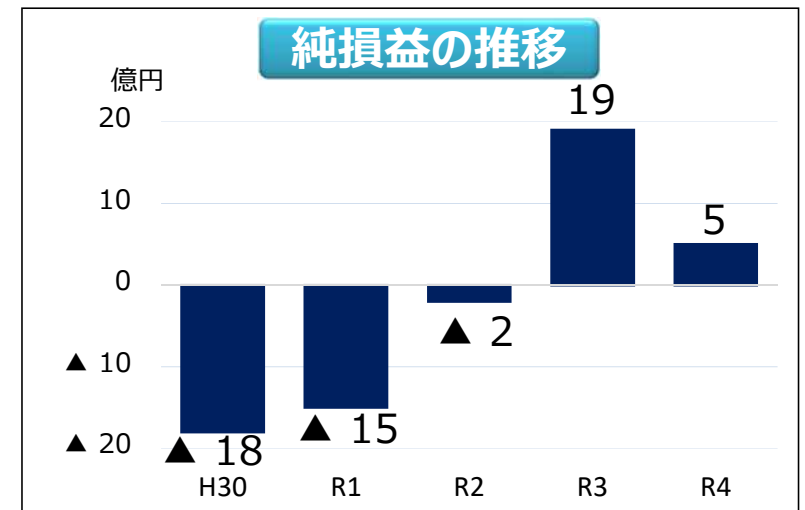
➤ 収益的収入	640億3,600万円	(前年度比 ▲約 5億円)	計画比 ▲約 4億円)
➤ 収益的支出	635億8,600万円	(前年度比 +約 9億円)	計画比 ▲約23億円)
➤ 当期純損益	4億5,000万円	(前年度比 ▲約14億円)	計画比 +約19億円)

決算のポイント

- ✓ 本業の医業収益は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも前年度を上回る440億円を確保
- ✓ 医業費用は、光熱水費の高騰などの影響により592億円に増加
- ✓ 純損益は、地方独立行政法人化後2年連続の黒字決算

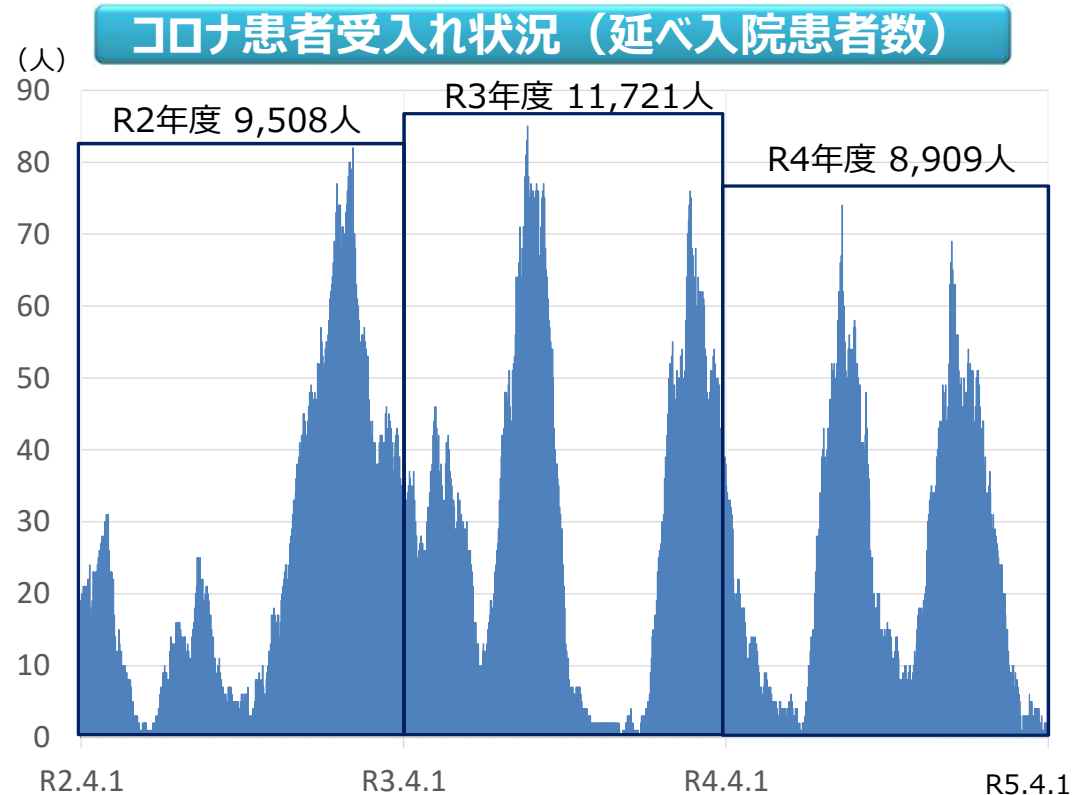
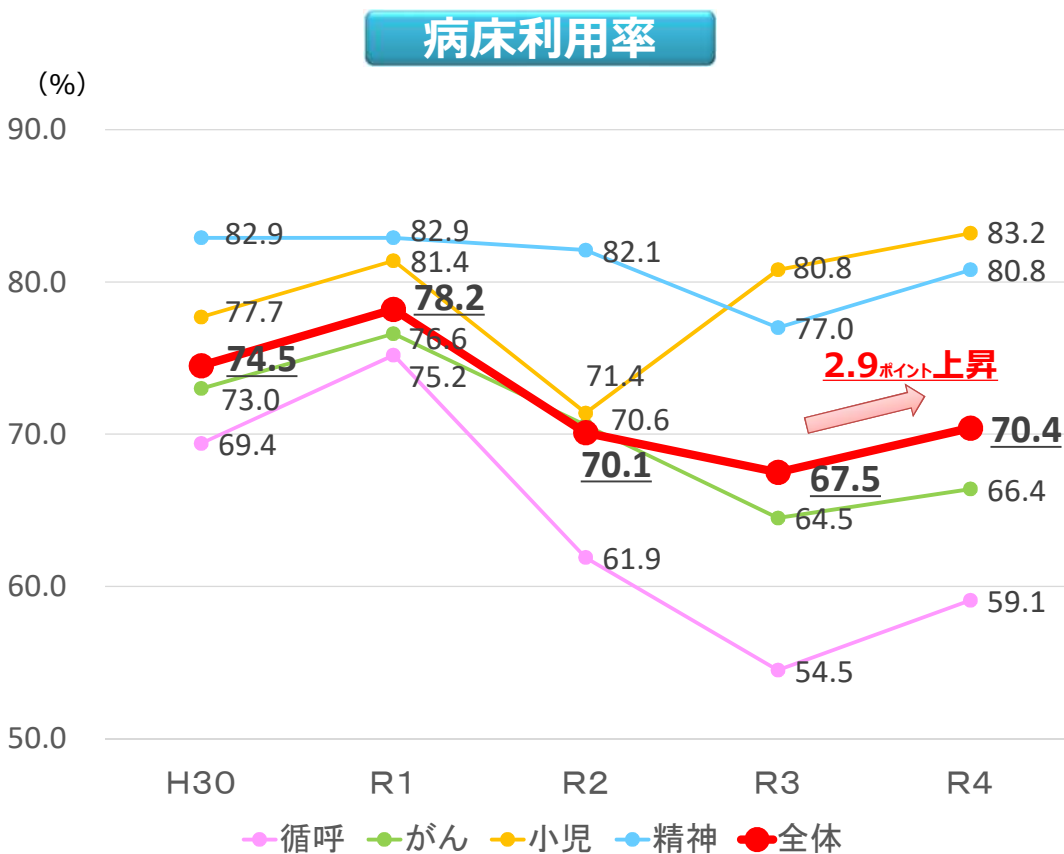
※医業収益には運営費負担金、補助金は含まれない

○ 医業収益	440億円	(前年度比+15億円、計画比▲41億円)
うち入院収益	292億円	(前年度比+10億円、計画比▲33億円)
うち外来収益	135億円	(前年度比 +4億円、計画比 ▲6億円)
○ 医業費用	592億円	(前年度比 +8億円、計画比▲17億円)
うち光熱水費	17億円	(前年度比 +5億円、計画比 +5億円)
○ 運営費負担金収益	149億円	(前年度比 ▲4億円、計画比 ±0億円)
○ 補助金収益	42億円	(前年度比▲16億円、計画比+40億円)
うちコロナ関連補助金	39億円	(前年度比 ▲17億円)



令和4年度の事業実績 (②病床利用率)

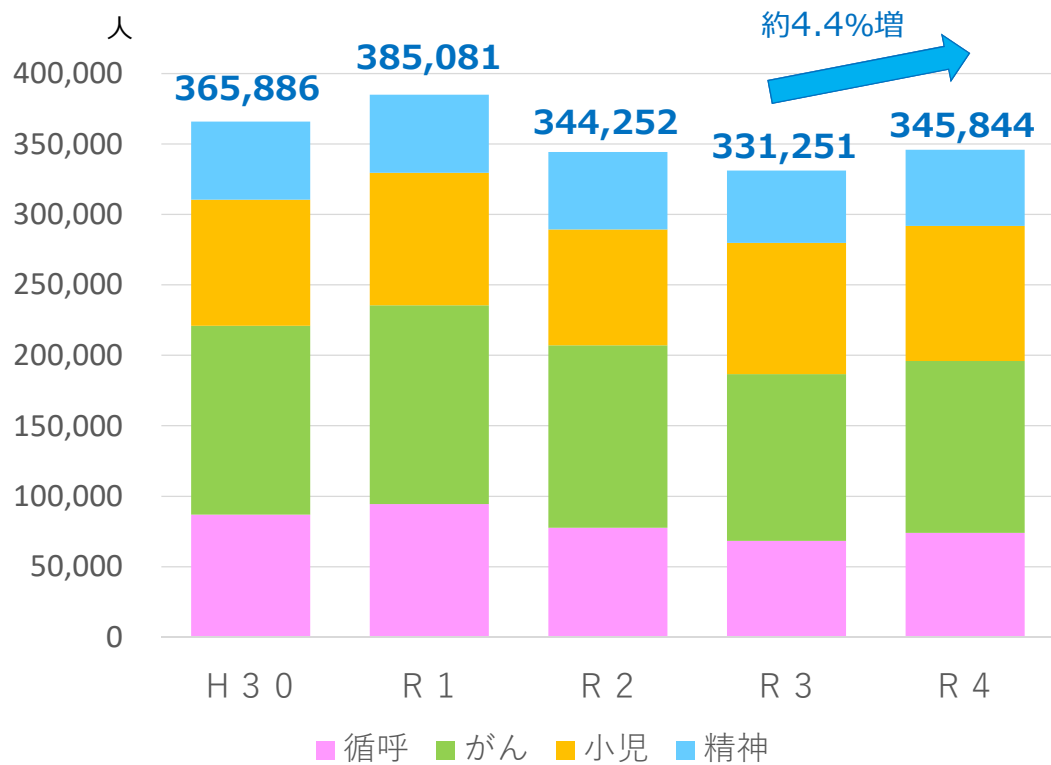
- ▶ 病床利用率は機構全体で70.4%、コロナ患者の受入れと一般診療との両立を図ったことにより令和3年度比で**2.9ポイント改善**
- ▶ コロナ患者を多く受け入れている循環センターとがんセンターは、コロナ感染拡大前の令和元年度を大きく下回っているものの、小児医療センターはコロナ感染拡大前を上回っている。



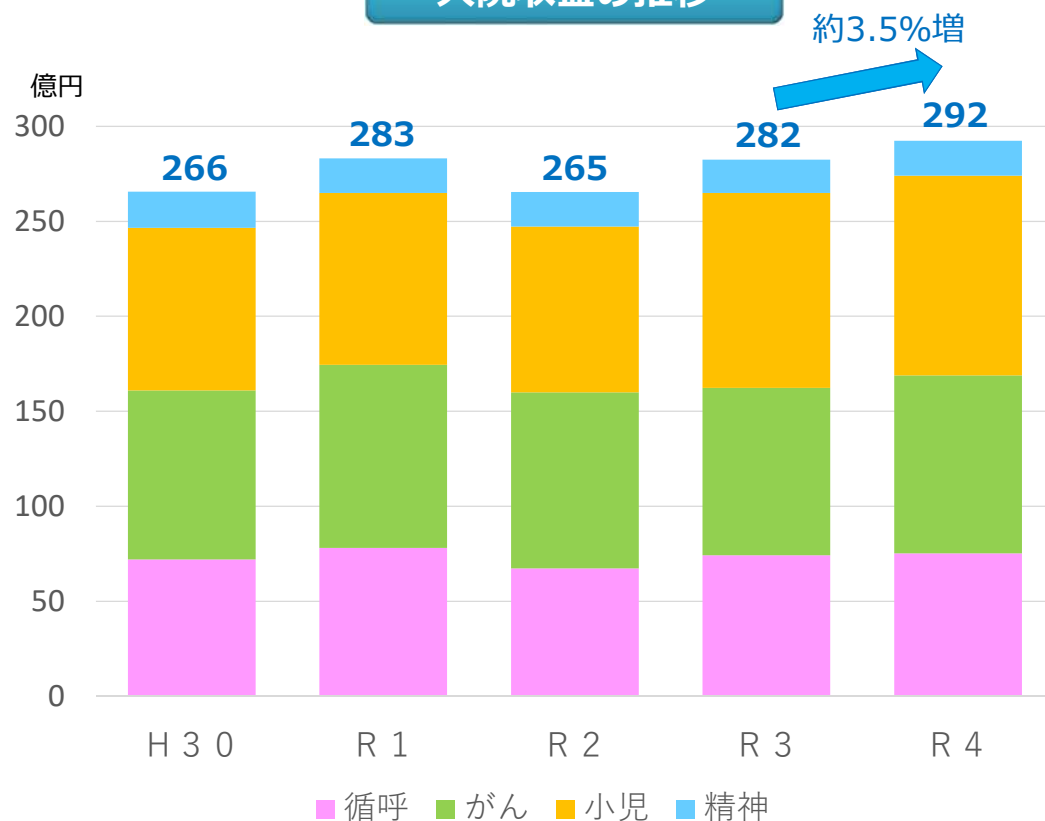
令和4年度の事業実績 (③入院)

- 令和3年度比では、入院患者数は約**4.4%増**、入院収益は約**3.5%増**で、ともに回復傾向
- 令和元年度比では、入院患者数は約**10.2%減**と依然として厳しい状況であるが、**入院収益は約3.2%増**とコロナ感染拡大前を上回る水準を確保

入院患者数の推移



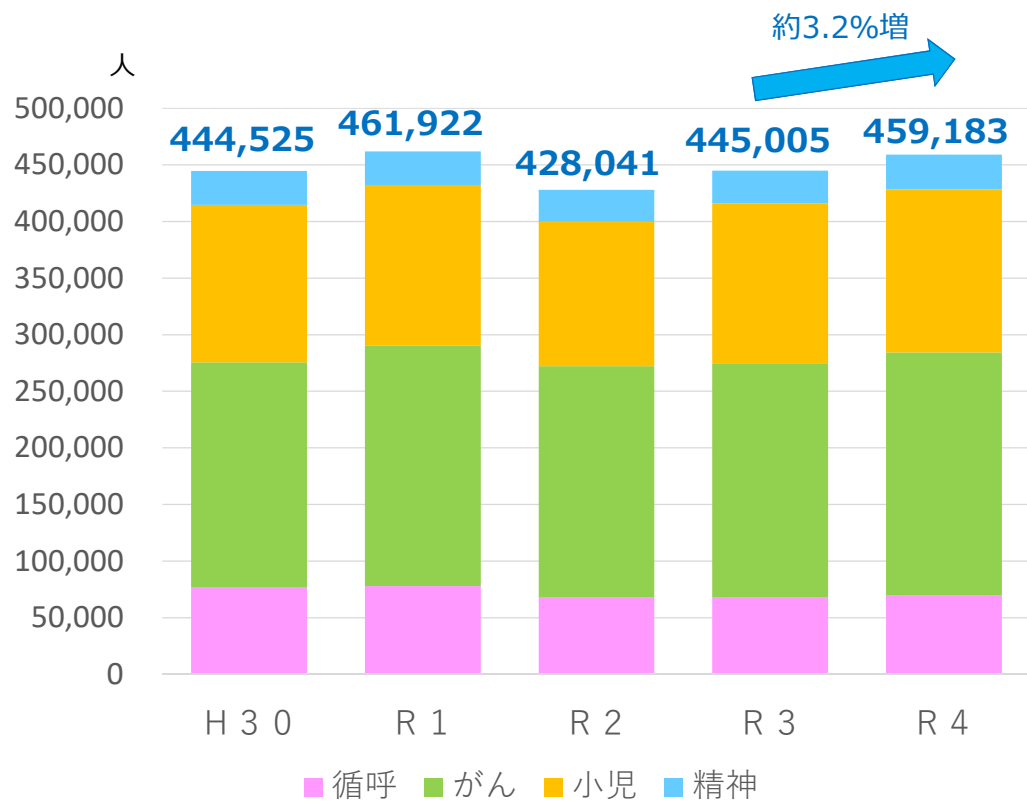
入院収益の推移



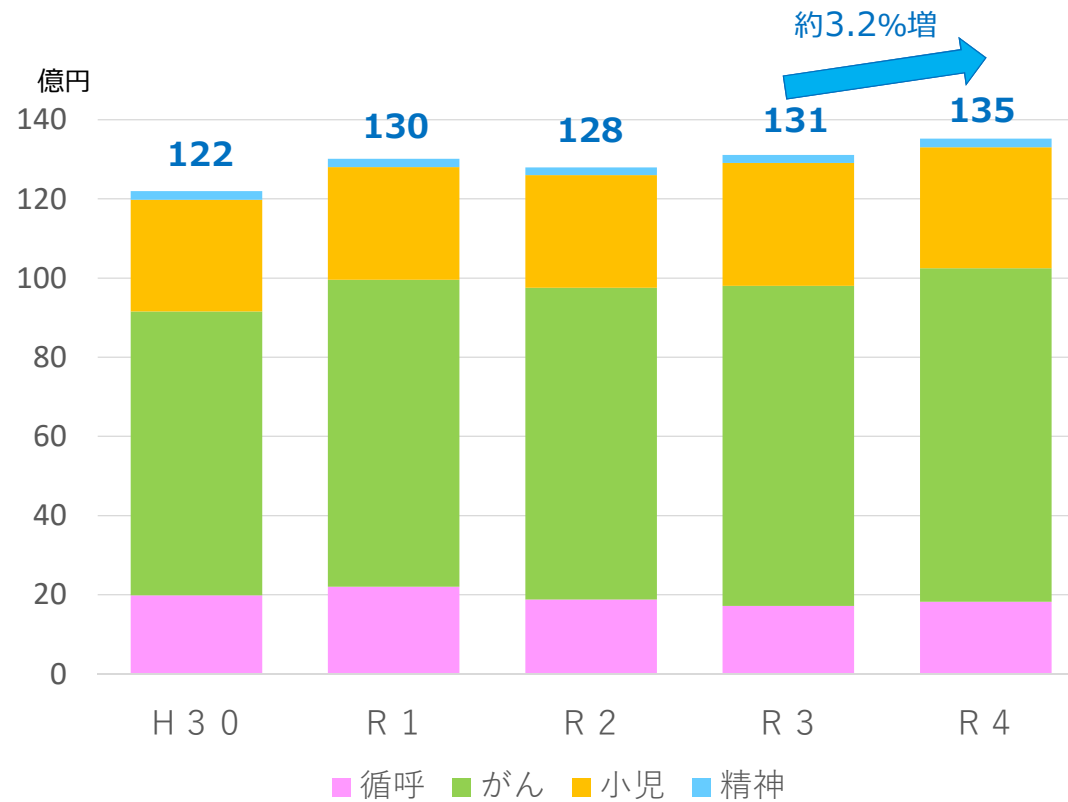
令和4年度の事業実績 (④外来)

- 令和3年度比では、外来患者数は約**3.2%増**、外来収益は約**3.2%増**で、ともに回復傾向
- 令和元年度比でも外来患者数は0.6%減とほぼ回復、**外来収益は約3.9%増**とコロナ感染拡大前を上回る水準まで上昇

外来患者数の推移



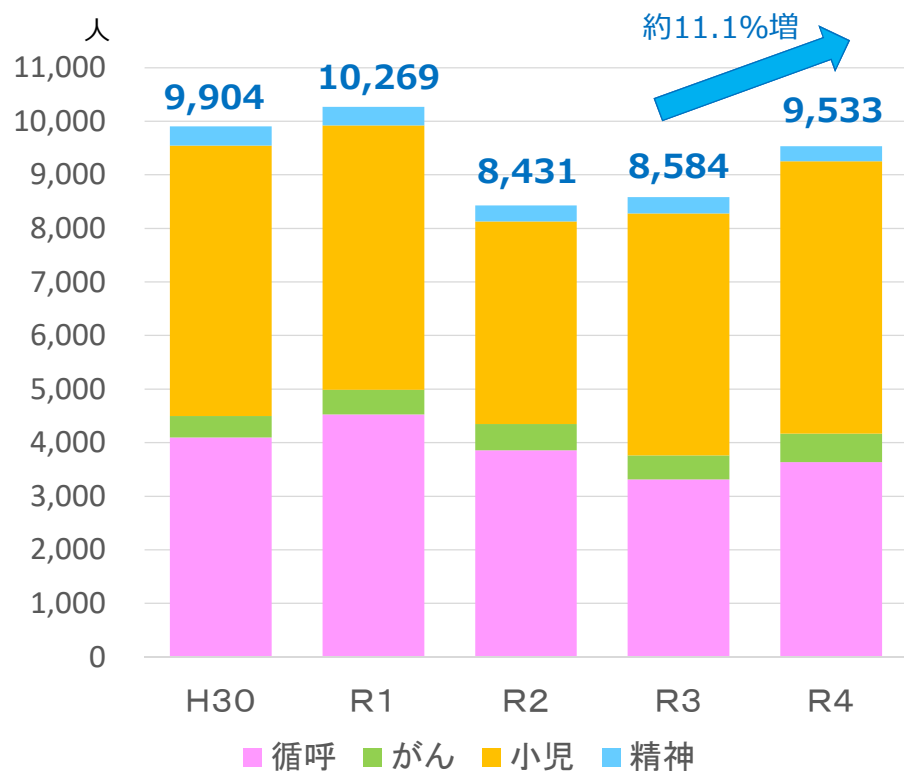
外来収益の推移



令和4年度の業務実績 (⑤救急、手術)

- 救急患者数は、令和3年度比で約**11.1%増**と大きく増加しており、回復傾向にある。
- 手術件数は、コロナの影響で予定手術の中止や延期があったものの、**令和元年度比で同規模を維持した。**

救急患者数の推移



手術件数の推移

